

谷津干潟におけるチュウシャクシギ *Numenius phaeopus* の峙について

桑原和之¹・久保田克彦²・石川勉³・田悟和巳²

はじめに

チュウシャクシギ (*Numenius phaeopus*) は、渡りの時期に海岸や水田・湿地などで比較的普通にみられる。千葉県新浜では、1950年代に、春期に多数のチュウシャクシギが観察されていた (新浜グループ 1957, 1958, 1968)。

千葉県習志野市に位置する谷津干潟においても、チュウシャクシギの個体数は春期に多い。その群れは、夕方から早期にだけみられ、採食せずに集団で休息している (石川 桑原 1984)。このチュウシャクシギの集団峙は、1978年から確認されているが、詳細な報告はまだされていない。本稿では、峙でのチュウシャクシギの個体数の変化、飛来時間・飛来方向などについて報告する。

調査地および調査方法

調査地は、千葉県習志野市の谷津干潟であり (図1)、その概要については、(石川・桑原 1983) を参照されたい。著者らは、谷津干潟でシギ、チドリ類の個体数の調査を継続している。1984年春期のチュウシャクシギの個体数に関しては、4～5月の記録を使用した。それぞれの調査日における最大数をその日の個体数とした。一方、夕方調査地に飛来するチュウシャクシギの調査は、1984年5月11日から25日の間に11日行なった。観察時間は17時から19時の間であり、10分毎に干潟内のチュウシャクシギを休息個体と採食個体に分けて数えた。同時に、干潟に飛来するチュウシャクシギの個体数、飛来方向とその時間を記録した。ただし、飛来方向の観察は、11日、12日には行なわなかった。

調査期間中は曇天の日が多く、16日・20日・24日には小雨が降り、晴天は18日のみであった。また、5月11日の日の入りは18時36分、25日は18時47分であり、その差はわずか11分であった。そのため、調査期間中の天候と日の入りの時間はほぼ同じであるとみなし、調査期間中に得られた記録を総計して飛来時間と飛来方向を求めた。

結果および考察

1. 峙における個体数の変化

チュウシャクシギの個体数は、4月23日の初認以降、急激に増加し、5月14日には529羽

1984年11月10日受理

1. 〒183 東京都府中市幸町3-5-8 東京農工大学環境保護学科 自然保護学研究室
2. 〒274 千葉県船橋市三山2-2-1 東邦大学理学部生物学科
3. 〒103 東京都中央区日本橋浜町2-49-4 (千葉県支部)

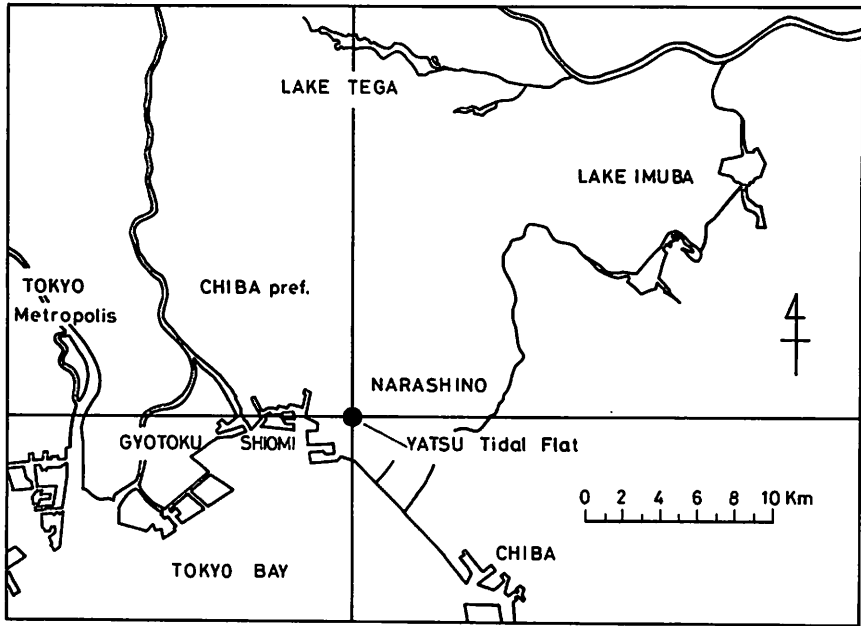


図1. 調査地, 谷津干潟およびその周辺 Fig.1. Map of the study area.

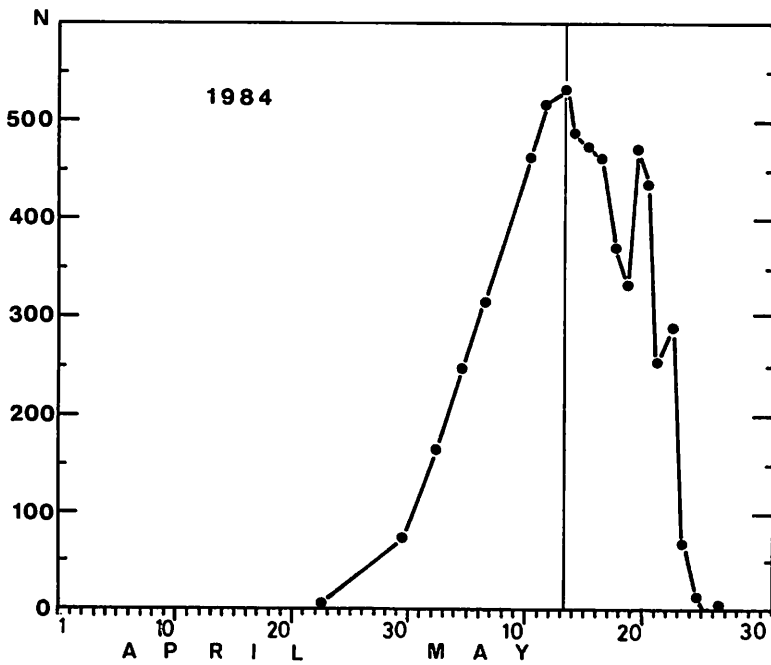


図2. 1984年春期におけるチュウシャクシギの個体数の変化
Fig.2. Changes in the number of Whimbrel *Numenius phaeopus*.
during spring migration at Yatsu tidal Flat in 1984.

に達した(図2)。5月14日から19日にかけて個体数は減少したが、20日には再び増加した。5月21日以後は1日約100羽ずつ減少し、26日には1羽もみられなくなった。なおここで用いた個体数は、すべて夕方にみられたものであり、日中の調査地内での個体数は少なく、多くても20羽程度であった。

2. 飛来状況

調査期間中、チュウシャクシギは、毎日17時頃から谷津干潟に単独か数羽の群れで飛来した。干潟へは、1羽で飛来する割合が高くこれが29%を占め、次いで2羽が15%、3羽が11%であった(図3)。10羽以上の群れで飛来した例は全体の15%であり、群れの最大数は36羽であった。群れの個体数の平均は5.0羽であった。このチュウシャクシギ

の群れは、干潟上空を数回旋回して降りたり、旋回せずに急降下して降りたりして干潟に集合した。“ピピピピピピ”と鳴きながら飛来することも多かった。干潮時には、多くの個体が谷津干潟中央に降りた。満潮時には、水没していない東側の砂質干潟に一旦降り、潮が引き始めると序々に中央部に移動した。5月14日と15日は、大潮のため干潟面は水没していた。この時には、一時的に谷津遊園地跡の埋立地に降りた。干潟が干出し始めるとすぐに埋立地から干潟に移動した。大潮満潮時にはダイゼン、ハマシギ、オオソリハシギなどは、谷津干潟から約4 km離れた船橋市潮見町の海岸に移動することがあるが、チュウシャクシギの移動はみられていない(石川・桑原 1983)。

干潟におりた個体のほとんどは、整羽したり、静止したり、嘴を羽の中に入れて休息していた。5月25日を除き、19時には休息個体の割合は、98%以上を占めた(図4)。一方、採食する個体は少なく最大でも28羽であった。

3. 飛来時間

チュウシャクシギの飛来は、17時以降に始まり、18時以降に顕著であった(図4)。

表1は、10分間隔にみられた個体数の増加を示している。18時20分から30分の10分間に、100羽以上個体数の増加が5日間記録され、特に16日には165羽の増加がみられた。個体数

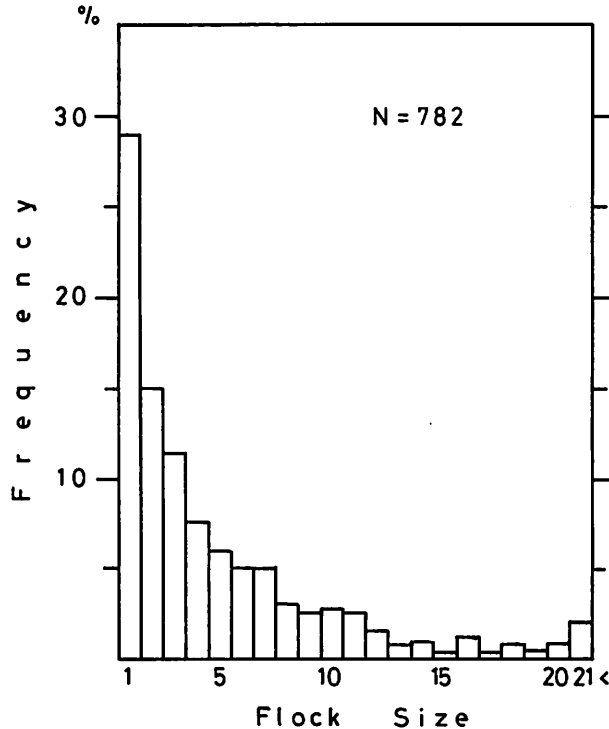


図3. 谷津干潟に飛来する時のチュウシャクシギの群れの個体数
Fig.3. Flock size of Whimbrel *Numenius phaeopus*, flying to Yatsu tidal flat. in the evening.

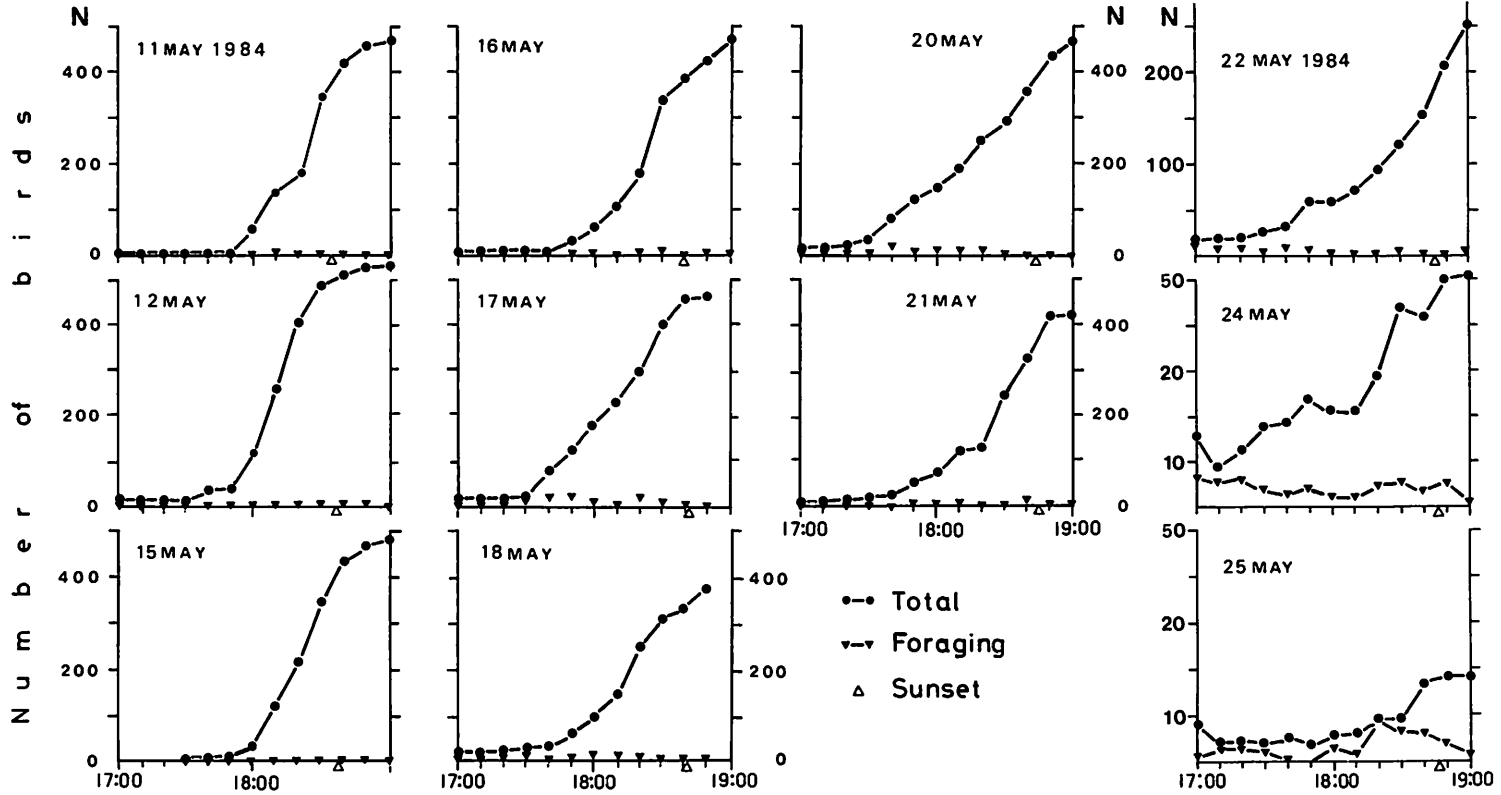


図4. 17時から19時にみられたチュウシヤクシギの個体数の変化。天候が良くなかった5月17日と18日の19時の記録は省いた。

Fig.4. Changes in the number of roosting assembly of Whimbrel *Numenius phaeopus* from 17:00 to 19:00.

Data of 19:00 in 17 and 18 May are excluded because of bad weather condition.

表1 チュウシャクシギの時間にともなう増加数の変化。

数字は、10分間にみられた増加個体数を示している。

Table. 4. Changes in the increased number of *Numenius phaeopus* on each ten minutes.
- show decreased number of *N. phaeopus*.

Time	May 1984 (Observation day)											Total Number	Percentage of increased birds
	11May	12	15	16	17	18	20	21	22	24	25		
17:00- :10	1	0	0	3	1	1	5	1	-1	-7	-4	0	0
:10- :20	0	-1	0	0	-2	2	0	-1	0	4	0	2	0
:20- :30	0	0	2	0	16	6	15	15	5	5	0	64	2
:30- :40	0	25	0	0	56	4	42	-1	7	1	1	135	3
:40- :50	0	0	5	23	37	28	44	29	26	5	-1	196	5
:50-18:00	57	82	27	29	56	35	25	33	-3	-3	2	340	9
18:00- :10	57	136	91	47	50	45	41	42	16	0	0	525	14
:10- :20	51	144	89	71	69	101	65	9	24	8	3	634	16
:20- :30	122	87	130	165	106	62	34	112	28	15	0	861	22
:30- :40	127	26	95	43	63	19	70	82	29	-2	8	560	14
:40- :50	30	8	29	40	2	48	75	95	54	8	1	390	10
:50-19:00	9	13	13	48	*	*	38	-6	47	1	0	163*	4
Total	454	520	481	469	454	351	454	410	232	35	10	3870	99

* Data of 19:00 in 17 and 18 May are excluded because of bad weather condition

の減少もみられたが、最も減少したのは7羽であり、少なかった。

チュウシャクシギの飛来数の割合は、17時から18時30分まで増加した。18時20分から30分の間の飛来数の割合が最も高く全体の22%を占めた。その後、割合は序々に低下した。

4. 塘からの飛去状況

塘からの飛去については、本調査の1年前の1983年5月の観察例をもとに記述する。

1983年5月9日3時45分には、約400羽のチュウシャクシギが、谷津干潟中央に集合していた。4時頃にはほとんどの個体は起きており、よく鳴き嘴を背に入れて休息している個体は少なかった。落ちつきがなく歩きまわる個体もみられたが、採食している個体はほとんどみられなかった。その後、4時12分に12羽、28分に約100羽、33分に約150羽、37分に約90羽、40分に約50羽、45分に約30羽、5時2分に最後の7羽が谷津干潟から飛び去った。6時以降は干潟では12羽しかみられなかった。

1983年5月5日の早朝においても9日と同様にチュウシャクシギの多くの個体は、干潟で採食せずに4時過ぎから5時頃までの約1時間の間に飛び去った。早朝の飛去は、夕方とは異なり短時間に大きな群れで飛び去るので正確な個体数調査は不可能であった。

5. 飛来方向

多くの個体は、毎夕北東の方向から飛来した。2487例の観察のうち58%が北東からの飛来であった(図5)。北東以外の方向からの飛来は極めて少なく、北から12%、東から11%しかみられていない。また、チュウシャクシギが早朝飛び去る方向も北東方向が多かった。

谷津干潟の北東から北に位置する船橋市、千葉市には広い水田や畑地は少なく、チュウ

シャクシギの群れは確認されていない(東邦大学野鳥の会 1977b)。谷津干潟の約15kmから20km北東には印旛沼が位置しており、その周囲には水田や畑地、草草が広がる。しかし、印旛沼付近では、百羽を越すチュウシャクシギの群れは記録されていない(東邦大学野鳥の会 1976, 1977a)。Prater (1981)によると、チュウシャクシギは日中広い範囲で採食し、その採食場から夜間の休息地 (evening roost)にもどるといふ。谷津干潟を囀とするチュウシャクシギは、日中、広範囲にわたって分散していると思われる。谷津干潟を囀とするチュウシャクシギの採食場については今後さらに詳しい調査が必要である。

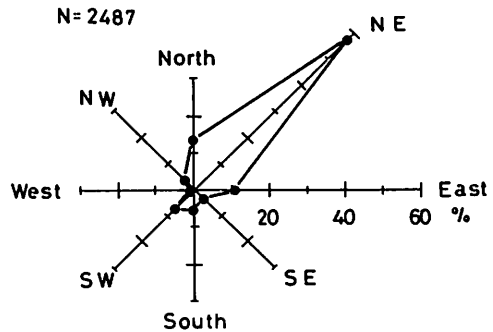


図5. チュウシャクシギの飛来方向

Fig.5. Directions from which Whimbrel *Numenius phaeopus*, flying to Yatsu tidal flat.

謝 辞

本報告をまとめるにあたり日本野鳥の会の花輪伸一氏、東京農工大学自然保護学研究室の原田俊司氏には、貴重な助言をいただき、調査にあたっては、早川知里、福井啓子、片岡則夫の各氏の御協力を得た。ここに厚くお礼申し上げる。

要 約

1. 千葉県谷津干潟において1984年の春期にチュウシャクシギの集団囀の観察を行なった。囀での個体数は、5月中旬に最も多く500羽を越えていた。
2. チュウシャクシギの個体数は、日中少なかつた。しかし、毎日、チュウシャクシギは17時以降北東方向から飛来し、18時以降個体数は著しく増加した。
3. 夕方飛来した個体の多くは、採食せずに集合して休息した。早朝には、この群れは、干潟では採食せずに飛去した。

引 用 文 献

- 石川勉・桑原和之 1983 谷津干潟におけるチドリ類の個体数の変化, *Strix* 2: 19-32.
 石川勉・桑原和之 1984 谷津干潟のシギ類の観察. 私たちの自然, 25(6): 10-15.
 Prater, A. J. 1981 *Estuary birds of Britain and Ireland*. Poyser, Calton.
 新浜グループ 1957 新浜の鳥の近況(II), 野鳥22, 77-82.
 ————— 1958 新浜の鳥の近況(III), 野鳥23, 262-267
 ————— 1968 新浜の鳥, 千葉県動物誌基礎資料, 第7集, 5-45.
 東邦大学野鳥の会 1976 印旛沼鳥類調査報告書.
 ————— 1977a 印旛沼鳥類調査報告書. 繁殖に関して1976年度.
 ————— 1977b 東邦大学周辺鳥類目録.

Roosting Flock of the Whimbrel,
Numenius phaeopus, on the Yatsu
Tidal Flat, Chiba Prefecture

Kazuyuki Kuwabara¹, Katsuhiko Kubota²
Tsutomu Ishikawa³ and Kazumi Tago²

1. The roosting flock of Whimbrels, *Numenius phaeopus*, was observed at the Yatsu tidal flat in Chiba prefecture, central Japan, in spring 1984. The number of individuals in the flock increased rapidly from late April and reached a peak of over 500 individuals on May 14th. After that, the number of individuals began to decrease. The final sight record of Whimbrels was May 25th.
 2. In the day time, the number of Whimbrels on the tidal flat was about twenty. They began to gather there at 17:00 and after. The arrivals were most frequent between 18:00 and 19:00. At 19:00 there were only a few feeding individuals: over ninety-eight percent of the individuals rested in the roost. Whimbrels left the roost between 04:00 and 05:00 without foraging on the tidal flat.
1. Tokyo Noko Univ. Conservation and Environmental Science. 3-5-8 Saiwai-cho, Fuchu-shi, Tokyo 183
 2. Toho Univ. Biology. 2-2-1 Miyama, Funabashi-shi, Chiba 274
 3. 2-49-4 Hama-cho, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103.